

# 教育ワークショップの 開催

## 研修の有効な手法

教育ワークショップ（WS）は、使える技能を持つ人材の育成に効果的な研修手法として、FDを推進するために用いられています。

WSでは、あらかじめ目標が定められています。その目標を達成するために参加者全員が効果的な討論・作業を行い、一定の時間内に成果（プロダクト）を生み出すという手順をとります。この方法によって、個人レベルで問題解決を行うのとは比較にならないくらい有効な成果を得ることができます。

WSには課題解決型と研修型とがありますが、両者を兼ねる場合も少なくありません。課題解決法であると同時に、効果的な学習方法の一つでもあります。

## ワークショップの構成例

WSは、ディレクター（主催者）、プランナー（計画者）、タスクフォース<sup>\*</sup>、受講者で構成されます。実際には、少人数（5～8名）に分かれた小グループによる討議（スモールグループディスカッション）でプロダクトを出し、それを全体討議（プレナリーセッション）で発表し討論し合うことにより、プロダクトをより良く仕上げます。

通常、小グループの討議では、三役（司会進行、記

### タスクフォース

もともとの語源は特殊任務を持った組織。ここでは、ワークショップなどでの世話人のこと。ファシリテーター。

録者、発表者)を置き、各テーマで役割を替え、参加者が全員、各役をこなすことが原則です。WSの参加者はFDの推進者となり、また、プロダクトを現場に持ち帰り、実際のFD活動にフィードバックすることが重要です。



全学FDワークショップ2015におけるグループワークの様子。

## COLUMN

### 全学FDセミナー／シンポジウムなどの開催

日本大学FD推進センターでは、平成24(2012)年度より年1回の新任教員FDセミナーの他、適宜全学FDセミナーやシンポジウムを開催しています。

テーマは、各学部で実践されている教育手法の事例紹介、学生評価の活用法、ティーチング・ポートフォリオなどで、全学FD推進の一翼を担っています。

平成25(2013)年度からは、FD推進センターの中期計画である、FDの中核的推進リーダー(FDer)育成のための実践的内容と学生参画型FDを促す企画を実施しています。

日本大学のFD活動は、教員・職員・

学生が三位一体となり、大学の教育力向上を図る広義のFDを目指す第2段階へと進化しています。

(学務部学務課)



平成27(2015)年度新任教員FDセミナーの様子。